

■令和 6 年度 第 2 回山梨県立美術館協議会会議録

日 時：令和 7 年 2 月 2 1 日（金）13:30～15:00

場 所：山梨県立美術館講堂

出席者：委 員 高野孫左エ門、伊藤裕之、内田浩恵、大木貴之、乙黒理絵、仲田道弘、
中野宗夫、原田由起彦、堀内麻実、三澤伊織、向山富士雄

事務局：（県立美術館）青柳館長、和光副館長、天野次長、井澤学芸幹、平林学芸課長、
北村総務担当リーダー、高野学芸担当リーダー、
太田普及担当リーダー

（指定管理者）支配人、マネージャー

（県観光文化・スポーツ部文化振興・文化財課）渡井総括課長補佐、田中主任

次 第： ・開会

・会長挨拶

・館長挨拶

・議事 審議事項 令和 7 年度事業計画について

報告事項 令和 6 年度事業報告等について

その他

会議録

事務局から審議事項、報告事項について一括して説明

議 長 　ただ今、事務局よりご説明をいただきましたが、ご意見ご質問等いただきたいと思います。まず、令和 7 年度事業予定について、ご質問ご意見があればお願いします。

　私から質問ですが、アンケートやデジタルを活用した利便性やサービスの向上とございますけれども、現在 SNS などを使った情報発信を定期的にしていらっしゃるでしょうか。

事務局 　はい、指定管理者としては SNS、インスタグラムをやらせていただいております。定期的な発信をしています。インスタグラムは画像が非常に有効な伝達手段でありますので、例えば先ほどパブリックスペースというお話がありましたけれども、「公園の花がきれいだ」という時事ネタなど、美術館の展覧会の情報だけにとどまらず、広く芸術の森公園のことを紹介するという取り組みをしています。

議 長 美術館というのは、この館の中に入って、作品を鑑賞するという活用の仕方の他に、生活の空間として公園を散歩するとかですね、生活パターンの中に位置づけていくようなそういう在り方があってもいいのかなと思うんですけれども、その辺り、指定管理者としていかがですか。

事務局 まさにその考えが、非常に大事だと考えておりまして、展覧会に来るというだけではなく、芸術の森公園全体の魅力を知っていただくことで、足が向きやすくなるのではないかということも感じていまして、パブリックスペースとは、入場料はかからなくても来ていただけるスペースというイメージなんですけれども、ここでのイベントも事前に情報発信を行いながら、こんなことに取り組んでいる、こんな面白いこともあるんだということを知っていただきながら、広くこの美術館の魅力を知っていただくというところには、これまでも、今後につきましても、しっかりとやっていきたいと考えております。

議 長 その内容はインスタで発信するのでしょうか。

事務局 そうです。

委 員 今の広報に関わる質問ですが、県立美術館は英語表記などもかなり充実していて、外国人の受け入れ体制は素晴らしいと思いますが、なかなかインバウンド客を美術館へ、あるいは博物館へ誘導しようと思っても、実際には日本ではそういう施設にあまり入っていないのは承知なんですけど、こちらでは外国の方はどのくらいの比率で来られますか。実数もしわかれば教えていただきたい。それと海外、特にアジア圏からの旅行者に関して、旅行会社などへの広報活動をどのような方法でされているのかを含めてご紹介いただければと思います。

事務局 実数はご用意がなくてちょっとわからないんですけれども、多くないことは間違いありません。多くの外国人の方が来ているという状況には、今のところ残念ながらなっていません。

海外への取り組みのところですけども、山梨県には非常に外国人が多く来られており、富士山エリアとか、北杜市方面は、かなり多くの外国人の方がいらっしゃると思うんですけれども、なかなかこの甲府界限は、通り過ぎてしまっている状態になっているかもしれないです。私どもとしては、観光

案内所に英語の案内書をまずは置かせていただくことを、去年から始めております。観光案内所からそういったアドバイスをいただきましたので、まずは、美術館の情報を英語で紹介する簡単なものですが、置かせていただいて、少しでもプラスになるようにという取り組みは、徐々に始めているところではあります。

議 長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

事務局 先ほど海外からの旅行者に対する広報活動についてご質問がありましたけれども、2月の上旬にやまなし観光推進機構が東京で開催しました商談会にSPS やまなしの職員が参加しています。そこには当然国内の旅行業者だけではなくて、海外から来るインバウンドをターゲットとした旅行業社も参加していたかと思います。詳しく承知はしておりませんが、そういう中で、国内からだけではなく、海外からのお客様に対する誘客も行っていたいただいていると認識しております。

事務局 それは商談会みたいなもので、業者さんがいらしているところだったんですが、担当者は、来ていた業者全員の方と名刺交換はでき、顔が繋がったところで、今後に期待ができるとっております。

議 長 今年度からレストランが指定管理から外れました。外した目的、狙いというのがあると思うんですけれども、レストランが外れてプラスになった効果について、お感じになったりすることがありますか。つまり美術館に来た人だけの利用施設ではなくて、わざわざ来るようなレストラン作りっていう認識をしているんですが、そのようになった、プラスになったというメリットみたいなものは、何かありますか。

事務局 レストランが外れた経緯は、指定管理者としての私どもはわかっていないくて。

議 長 その外れたことによって何か変化とかあったんですか。

事務局 そんなに大きな変化が起こっているという認識はありません。以前は指定管理者として一緒にやっていたレストランですが、新しい会社が入られても指定管理業務の中でも外でも、私どもとしては同じで、変わらず美術館における活動を一緒に協力をさせていただくというところで、今のレスト

ランにも非常にご協力をいただいています。

例えば、展覧会に合ったメニューを考えていただくとか、それを SNS でいろいろ紹介をさせていただきながら、それも含めて美術館の魅力を見せていくということについて一緒に活動するという意味では、何も変わりはないという認識です。

議長 ありがとうございます。他いかがでしょう。

委員 SNS への発信ということで、インスタグラムで情報を発信されていると思うんですけども、コメントは、私もフォローさせてもらっているんですけども、コメントがあるときに、どなたからも返事がない、担当者の方からのコメントがないっていう場合に、ちょっとやっぱり、あれ？なんか質問したのに返ってきてないな—ということで、ちょっと心が離れてしまったりということが、多分潜在意識的にあると思うんですけども、そういった SNS の投稿に対しては、どなたがご返信されているか決まっていらっしゃるのでしょうか。

事務局 はい。SNS の発信は、指定管理の広報業務として行っている担当者がおります。担当者 3 名から 4 名の者で交代しながら、対応しています。

コメントについての返信は、社内のルールとして基本的には返信しないことにしております。いろいろ理由はあるんですけども、話が大きくなってだんだん収集がつかなくなっていくとか、みんなで確認をしながらやっていますので、すぐのレスポンスが難しいとか、あと、内容によっては炎上というリスクもありますので、基本的にはよほどのことがなければ、返信はせずにいるというルールで配信を行ってます。

ただ、今お話いただいた、心が離れちゃうかもというお話、そういったこともあるかもしれないので、検討させていただこうと思っております。ありがとうございます。

委員 ありがとうございます。

委員 インスタグラムを私もフォローさせていただいて、コメント等への返信はしませんというコメントも拝見しているので、理解しているんですけども、先ほどインバウンドの誘致とか、海外からの誘客の取り組みというときに、フォローも制限されていると思いますけど、例えばルーブル美術館など海外の主要なところをフォローしてコネクトすることで、そこに繋がってい

る方が、今度は山梨県立美術館を知って、そこにはミレーの本物があるということを知るといふ貴重な機会になると思うので、発信だけでなくコネクトというところをちょっと検討していただけるといいかなと思いました。

事務局 ありがとうございます。本当にそのとおりだなと。私としても、何をどう発信して伝えるかということに注力してしまってますね、そういった視点は今までなかなか持ててなかったと思います。検討させていただいて、ぜひそういったものを取り入れて行きたいと思います。

委 員 ここで質問していいかわからないんですけども、実は 24 頁のミューゼ・マルシェの時に山梨県民文化祭の美術展があったんです。その日が美術展の最終日で、作品を搬出する日でありまして、特にその日は表彰式もあったものですから、ここに「渋滞を発生させることもなく、大きな混乱もなく開催することができた。」とありますが、おそらく問題なかったんだと思うんですけど、その一方で、表彰式に来た人、搬出にきた人としてはですね、美術館駐車場の整理をしてもらったんですけども、結構駐車に苦慮しまして、ぎりぎり間に合ったというような感じでした。

美術展の開催は、前年度の 2 月か 3 月頃決まっていたんです。そのマルシェの開催というのはいつ頃決まったんでしょうか。

事務局 年にもよりますけれども、だいたい年初ぐらいには決まっています。

委 員 じゃあ同じ頃、決まっていたわけですね。

まあ渋滞を発生させることもなく、大きな混乱もなく開催することができたという報告いただいたのですが、実際は駐車に結構苦労しました。美術館の関係者の方には大勢出ていただいて急遽、混乱を防いでいただきましたけど、満車は 10 時頃から 11 時頃は車が珠々繋がりて停められなくて、混乱したということを理解しておいてください。

なるべくなら、事前にわかるならば、そのようなことが発生しないように、特に大きな団体展とか、A、B、C ギャラリー全部を使うぐらいの展覧会がある場合、大きなイベントがある時は駐車場全体が非常に混乱する可能性があるのを理解して、日程調整に協力いただきたい。

また、搬出日とか、特に大きな動きがある時には、美術館の裏の駐車場が大混乱するものですから、いつも協力はしていただいていますけれども、これからも是非とも宜しくお願いいたします。

事務局 マルシェの日に関しましては、本当にご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。日程が重なってしまって本当に大変ご迷惑をおかけしてしまいましたこと、我々も反省点とし、今後はイベントの内容なども確認しながら計画していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

委 員 どの美術館もこの4年間で入館者数をかなり減らしていて、質問といえますか、意見といえますか、ミレーに関してなんですが、学校教育の中で様々工夫をされているのはもう十分承知していただきたいと思います。

私は、このところコロナ期も含めて、県外へ講演などで呼ばれることが多くて、それで行ったときにですね、集まってくれた皆さんに、「以前はミレーの美術館として有名な山梨県立美術館にいた。」と言っています。

横内知事の時に、「俺は東京行くときに、電車の人に声を掛けて、山梨のミレーの話をするけど、ほとんど反応がないぞ。」って知事から直接言われたことがあったんですね。たくさんの素晴らしい美術館が、もう47都道府県にはすべてあって、ミレーの美術館としての知名度がだいぶ薄れてきているなということを私自身感じてますし、その社会の思考や、19世紀の自然主義のミレーの生き方に共鳴できる人間が減ってきているのかもしれないんですけれども、子どもに聞くと「落ち葉拾い」なんて普通に言っているくらいですからね。「落ち穂を拾う」という意味から入ろうとすると、なかなかミレーを理解するまでには、少し時間をかけたり、言われたように爆発的人気の影響がなければやっていけないなど。これは元職員としても責任を感じながらの意見といえますか質問なんですが。

だから先ほどのインスタグラムの話やインバウンドの話もしましたが、「ミレー」をそろそろここで押し出さないといけない。ついてはですね、もう一回ミレー展をやって欲しいなど。

昨年度、ミレーと現代作家とのコラボ企画ということをやったと思うんですが、私がここを退職するちょっと前に、フランスのシェルブールからミレーの作品を借りてイベントをやったときに、8万人ぐらい入館者数がありました。ミレー展だけで10万人を超すような展覧会もなかなか将来的には難しいななんてことをここにいるスタッフと話したことを覚えていますけど、でも、やっぱり5年か、少なくとも10年に一度は、お金もかかって大変でしょうけども、ボストンなり、フランスの美術館なりから、やっぱりミレーの本物を借りてですね、県民にもう一回ミレーの素晴らしさを伝えるということも、そろそろやっていただけたらなというふうに思うわけです。今の運営に口を出すつもりはありませんが、ミレーがやっぱり県立美術館の武器にならないといけないと思います。全体の入館者が観光に影響を与えるという

ことで言いますと、ミレーにもう一頑張りして欲しいなという意見です。よろしくをお願いします。

議 長 ご意見でよろしいですか。

他にないようですので、令和7年度の事業予定については、承認していただいたものとしてよろしいでしょうか。

～一同拍手～

議 長 それでは次に移ります。

令和6年度の事業報告についてご意見ご質問を承ります。

委 員 私は何年かこの協議会に来ているんですが、毎回美術館は教育施設だけではなくて、観光施設なのでぜひよろしくという話をして、特に冬の観光については山梨は困っているという話をして、今年度開催のですね、この特別展を見ますと、冬の入込みが非常にいいので、何度も言ってきた甲斐があったなということで、ありがとうございます。

そしてそれに伴って常設展の方も1月は増えてきているということで、こういうところでやっぱり美術館がですね、できればルーブルと並ぶような観光施設になっていただきたいということを思っております。

先ほど文化観光拠点施設の高精細のデジタルコンテンツについて話がありましたけれども、これは誰でも自由に使えるようになっているんですか。商業利用にですとか。

事務局 特別観覧ということで、ミレーの作品など所蔵品の画像をご提供できますが、今度の高精細画像については、実は大変高精細、それこそ個人のパソコンでは開かないぐらいの大きなファイルになりますので、そのまま提供して利用されることは想定していないところはございますが、高精細で撮った写真の画像を小さくして、それでも今までのものより大変鮮明なものをご用意できます。

委 員 ありがとうございます。山梨の土産品のパッケージにしていいただければと思います。よろしくお願いします。今もう美術館の画像はどんどんフリーになっている状態ですので、ぜひよろしくお願いします。

それと今年の秋の「山下清展」、非常に観光的にも集客力がありますので、できれば冬までもやってもらいたかったなと思っています。

冬の「日本画」につきましては、できればインバウンド向けのピーアールを、やまなし観光推進機構と一緒にできればと思っております。

最後に、さきほどもレストランの話が出ましたけれども、ちょっと私どもの方にはレストランは以前より美味しくなくなったなというようなご意見がきていました。業者が変わったから美味しくなくなったのか、元々美味しくなかったのかちょっとわからないんですけれども、そういう意見があったことをお伝えしておきます。

議 長 これは美術館が関与する領域の外ですね。

事務局 レストランに関するご意見については県からレストラン運営会社へ伝えさせていただきます。

議 長 でもやっぱり美術館や公園に滞在している方が、ここを楽しむのに、食というのはやっぱり大事な要素だろうと思うので、お伝えいただければと思います。他にいかがでしょう。

委 員 今、仲田さんのお話で僕もあれと思ったのだけど、「山下清展」は、もちろん生誕 100 年ということもあると思うんですけど、どんな感じでやるのか、もしご説明いただければ。なにかこう山梨とは縁があるんですか。

事務局 山下清は全国をたくさん歩きましたので、山梨にも当然きて、昇仙峡をご覧になって絵にしたりもしているのですが、山梨の生まれでもありませんし、特に縁があるわけでもありません。

当館の特別展はいろいろなジャンルのものを、なるべく多く見ていただくことを考えていますので、山下清は、貼り絵という少し変わったジャンルの作家ですので、こういった方もご紹介していきたいと考えて、今回開催することになった次第でございます。

委 員 私も非常にそういうのがいいと思います。やっぱりここは、大勢の方にうけるそういう展覧会とか、やるべき価値があるとか、メリハリを付けて全体に年間大勢のお客様が来られるようなラインナップを作られているのが非常にいいんじゃないかと思って、ぜひどこかわかりませんがお手伝いできることがあったらその時はお願いします。

事務局 訂正です。先ほど所蔵品の画像利用についてのお話ございましたけど、

画像利用は完全フリーではございません。特別観覧ということで若干ですが、使用の内容によっては料金が発生することがございます。これは当館だけではございませんで、山梨県全体で、博物館美術館の所蔵品に関する画像の利用の条例がございまして、それに則って進めておりますが、せっかくたくさん大変良い画像がご用意できますので、ご利用いただければと思います。

事務局 特別展については、多くの観覧者を得られるような展覧会を開催すること、山梨の芸術家を掘り下げて、調査研究して作品を紹介する展覧会を開催することのどちらも当館の役割だと思っています。

今年度は、冬の時期に超絶技巧展に、非常にたくさんの方にお越しいただいたということで、特別展の方の観覧者数が増えれば、常設展の方も入ってくれますので、双方の観覧者数が増えることになり、冬の観光客確保もできたと思っています。

そうした中で今回超絶技巧展のお客様の中で、いただいたご意見からちょっと感銘を受けたことがありました。SPS やまなしの職員から「副館長知ってますか、今日 80 代の女性が、白寿越えの親御さんを連れて来られたんですよ。」と言われたんです。それで、そのコピーをいただいたので紹介させていただきます。

この方はテレビ等で本展についてのニュースをご覧になり、ぜひ観たいということで、美術館へ行きたいと親御さんに言ったら、一人で行ってきてくださいと言われたそうです。そうは言っても相当な高齢の親を一人で置いていくのが心配で、無理矢理連れてきて一緒に観覧されました。観覧後、親御さんも来てよかったと感想を述べられたということで、「老老介護の生活ですが、今日は素晴らしい一日になりました。ありがとうございます。」というご意見をいただきました。この方は前回美術館にお越しになったのが 10 年程前だということなので、ずっと来られていなかった方なんですけど、久しぶりに美術館を訪れていただきました。たくさんの方に来ていただくという中で、こういったご意見をいただきまして、本当に有難かったということをここで披露させていただきました。

議 長 特にないようであれば令和 6 年度事業報告については以上とさせていただきます。よろしいでしょうか。では 3 その他について、何かございますか。

事務局 事務局の方から、デザイン先進県実現に向けた『山梨デザインセンター』の取り組みについて情報提供をさせていただきます。

本県のデザインへの取り組みですが、令和４年１２月に多摩美術大学の理事長でもあります青柳館長に支援いただく中で、県と多摩美術大学との包括連携協定を締結したところです。

令和４年から８年にかけての現在の県の総合計画で、デザイン先進県の構築を掲げております。その中で美術館に附属するデザインセンターを設置するとしております。

令和５年の６月に策定しました美術館ビジョンにおきましても、新たな価値を作り出す美術館という方向性として、美術館に属するデザインセンターは、その一環としての取り組みとして位置づけられているところです。本県では、多摩美術大学との包括連携協定によります同大学の協力を得る中で、デザインセンターの整備の検討を進めて参り、昨年の１１月２０日に山梨デザインセンターを防災新館の２階にオープンしたところです。

組織・人員体制につきましては、今年度は文化振興・文化財課の職員と産業技術センターのデザイン職の職員が兼任しておりますが、来年度からは、行政職の専任職員２名と、任期付き採用のデザインの行政職と学芸員の２名が配置となる予定で、今年の４月から本格的な活動が開始されることとなっております。

そしてこのセンターの最大の特徴として、特筆すべきは、多摩美術大学のご協力のもと、日本を代表するデザイナーに参画していただいているということであります。県のＣＤＯ兼デザインセンター長に永井一史先生、デザインディレクターに深澤直人先生、柴田文江先生、林千晶先生にお願いしているところです。

センターの理念は、「デザインの力で山梨をしなやかに美しく」ということで、工業デザインに加えて、政策デザインや地域デザインにも取り組むデザイン推進の新たな拠点となります。当館といたしましては、デザインとアートの力でシナジー効果を生み出せるようデザインセンターと連携して取り組んでいきたいと考えています。

議長 他に何かございますか。ないようですので、以上とさせていただきます、終了とさせていただきます。ご協力いただき誠にありがとうございました。